

e-ビーフNEWS 北の牧場から

October 2018

十勝の秋深まる

今日は2個目の台風がやってきました。前日から食料の買い出しや非常時の準備、ガソリン満タン、発電機始動OK イザ来いと待ち構えていました。早朝ザーザー雨降り、これから突風かと待ち受けましたが、雲の間からお日様が・・・牧場帰りには日高山脈の山並みが山肌くっきりときれいに見えました。周りを見るとすっかり木々に黄色さが目立ち秋模様に変身。畑ではジャガイモ収穫も峠を越え、豆の刈り取りに移ってきました。牧場も2番草の収穫からデントコーンの刈り取りが始まっています。デントコーンは牛にとっては重要な栄養。夏の不順な天候で成長が今一でしたが、昨年と違って倒伏しなかつた分だけ、良しとして実入り収穫を期待したいとこです。



活動のお知らせ

- 10月5日(金)～6日(土) 十和田市営牧場、市民交流プラザ 第44回日本短角種研究会、枝肉勉強会(十和田食肉センター)
 10月20日(土)京都大学農学部 畜産システム研究会第32大会 ・肉用牛の哺育・育成方法をめぐって一生涯成績を視野に入れて
 10月31日(水)13時～11月1日(木) 北斗市農業振興センター(函館駅まで車で20分)第23回北海道肉牛研究会大会
 ・大会内容(仮題) 基調講演 「日本版畜産GAPの概要と肉牛農場の取組み」
 一般財団法人日本GAP協会基準認証部畜産グループ 朝日光久氏
 ・事例紹介 「日本版GAPと農場HACCPの取得について」大野ファーム大野泰裕氏
 ほか 現地検討会 あか牛生産農家
 11月8日(木) 帯広 北海道畜産公社 第5回北海道肉専用種枝肉共励会
 11月8日(木) 帯広 帯広畜産大学 第15回資源循環型肉牛生産シンポジウム 2018
 ・内容 基調講演 「家畜の福祉と肉牛生産」(株)グッドテーブルズ 山本謙治社長
 話題提供1～5 パネルディスカッション
 意見交換会 eびーふ大焼肉すきやきパーティー 帯広畜産大学 逍遙舎 口田研究室協力 参加費/3,500
 11月9日(金) 現地検討会 大樹町 (株)坂根牧場 アニマルフェア認定酪農家

NEWSばか読み

- 農林水産省 18年度産米作柄 北海道15年ぶりに不作
9/1:今年はおいしいコメが当たらないか
- 農林水産省 輸出診断で輸出指南支援サイト開設 9/1:実務のか確認
- ミートエポック・明大農学部 発酵熟成肉製造エージングシート開発
9/1:興味
- ジャガイモ相場低迷 ぼてちショックで増産卸値低迷で産地苦戦 9/3:反動
- 国産コーン飼料生産拡大 国産子実コーン広がる 9/3:楽しみだね
- 新潟JAえちご 省力低コストで業務用多収米生産拡大 9/4:米の多様性だね
- 農産物食品の輸出実績 加工食品のほとんどは輸入原料使用
9/5:データの増し
- 国産豚肉相場 1ヵ月で3割下落 9/5:時期は時期
- 北海道地震 震度7 全道一斉停電 9/6:ピンポイントで襲った発電所
- 豚コレラ 岐阜で26年ぶりに発生 9/9:拡大注意、風評抑制
- 内閣府 GPS年3%増発表 9/11:実態感なし
- 地震1週間 道内酪農家に乳房炎多発NOSAI一時葉不足 9/13:影響甚大
- 農林水産省 7月輸出18%増705億円肉・乳製品好調 9/13:波に乗れるか
- ホクレン9月上旬受託乳量16%減 地震の影響深刻 9/15:まだまだ回復せず
- 岐阜豚コレラ 死亡野生イノシシに陽性反応 9/15:拡散懸念
- 廃プラ処理で農家経営圧迫 1年で3倍に高騰 9/15:自然回帰原料の資材を
- 農林水産省 輸出目指す農家や食品業者の連携促進に設備導入補助
9/17:広く広く

- 総務省 65才以上の女性2千万人(31%)超す 9/17:高齢女性比率重要
- 農林水産省 耕地利用率前年並91.7%佐賀県二毛作で131%トップ
9/18:二毛作か
- 牛マルキン 肉専で発動3,500円F1/6万5千円ホル2万2千円 9/18:血税
- 農林水産省 19年度予算にスマート農業実証に50カ所指定
9/19:将来に開けるか
- 内閣府 中山間地での小さな拠点1,000超す 9/19:
- 農林水産省分会でGM飼料(飼料用綿)と飼料添加剤使用承認
9/19:浸透警戒
- 大手製紙業界 ストロー、フィルムなどプラ代替品の開発相次ぐ
9/20:コストだね
- 東南アジアの製造業、生産移行で伸率 中国に迫る 9/20:経済向上
- 中国国慶節 旅行人気で災害復旧評価され日本1位 9/20:台風来るよ
- 民泊新法3ヶ月 届け出9,000件超す 農村で広がる 9/21:アイディアが
- 外食各社ストロー廃止の波広がる 環境に敏感な投資家消費者
9/24:基準が違う
- 厚生労働省 国民健康栄養で若者の野菜摂取不足が深刻
9/24:マスメディア必要
- 農林水産省 課税強化で遊休地5%減少 再生困難地も増加
9/24:逃げているな
- 輸入牛肉1-8月で1割増しの40万t 9/28:着実の伸びています
- 農林水産省 GI登録に「くまもとあか牛」認証 9/28:北海道も
- 政府 震災で多発した乳房炎対策で支援 9/29:震災か人災か

東京直近NEWS (9/30 Shi-REPORT)

ホルス 10月枝肉相場はほぼ横ばいで高値維持。

頭数は前年割れが続いており、産地でも取扱いが落ち込んできている実感できている。販売については、低迷が続いており9対前半の台風21号と北海道胆振東部地震の影響もあり勢いに欠けている。季節的に産地フェアやスライス品の需要高まり問い合わせ増えてきているが、頭数不足から万度にパーツ供給できず受給バランスを崩している。

経産牛 経産牛相場は高値安定状況。

北海道胆振東部地震の影響で生乳不足と更新牛も高値からと畜頭数は大きく増えていない印象。本州は経産牛の出回り少なく、北海道からの移動も増えておらず不足状況継続。

販売は、ホルス以上の不足と高値傾向から経産パーツの代替え需要含め問い合わせや引き合いは増えてきている。挽き材は大きく変動しておらず、産地の取扱い頭数減から若干問い合わせ多い。

先月は日本各地で台風による豪雨と土砂崩れ、家屋の崩壊、そして大地震とブラックアウトなど日本の国土は大荒れでした。大規模災害で停電の影響がこれほど強調されたのも珍しいことです。工場機能の停止で産業が停滞し、さらに農業・酪農業の搾乳機やロボット、貯蔵設備などは電力依存が大きく、人口の少ない地域で自家発電装置の小さい農家の損害の大きさは測り知れません。日本の国土の66%は森林ですがその上に日本農業は成り立っています。その国土が地球規模の異常気象や自然災害で荒れて、生き物である家畜が病気になれば農家の打撃は深刻です。それでも農業は地球上の砂漠化していない地域での生産は続けるべきで、今回の自然災害は怯むことなく技術などで克服すべき課題です。これは日本の国土で農業を続けることの大切さに地球規模の意義があるということです。是非支えてゆく必要があります。e-ビーふNews58号の学術情報は以下の通りです。

1. 日畜会報89(3) 2018

1) 329 - 337; 黒毛和種去勢牛24ヵ月出荷体系における肥育前期のバイパスタンプク質飼料の補給が肥育成績に及ぼす影響(安部 亜津子他、島根畜技せ)

黒毛和種肥育牛の枝肉成績向上へのバイパスタンプク質飼料補給効果を検討しました。24ヵ月出荷体系で8-13ヵ月時に500g/日で加熱大豆粕主体の飼料を給与すると日増体量が有意に増加し、BMS No.や保水性などの肉質成績に影響することなく歩留基準値も向上すると思われました。

2) 339 - 344; 日本短角種去勢牛の塩漬された6筋肉間における理化学特性及びテクスチャー特性の比較(福田智歩他、岩大院)

黒毛和種牛よりも日本短角牛の肉は脂肪含量が少なく硬いとされ、発

色剤無添加の生ハム加工が考えられ、その塩漬が筋肉の理化学的特性への効果を筋肉間で比較しました。塩漬後のa値は腓腹筋が低く、棘下筋、腓腹筋はドリップロスが低く、テクスチャーは半膜様筋が優れ、これらの筋肉が原料肉として有効と思われました。

2. 栄養生理研報Vol.62,#2,29-32

新たな生理学的ストレス評価法とその応用(林 英明, 酪農大獣医学)

アニマルウェルフェアではストレス負荷の軽減が課題ですがストレス評価の生理学的指標では血漿コルチゾール濃度が有効です。これは糞便や被毛などにも移行し、非侵襲性の採取が可能で移行サンプルは期間や安定性に違いがあります。これらのコルチゾールの生理学的指標は中長期・慢性的なストレス評価に有効で、短期的ストレス評価には複数マーカーの組み合わせが必要です。

3. 畜産技術#760,2018.9 (研究レポートは紙面の都合で次号にします。)

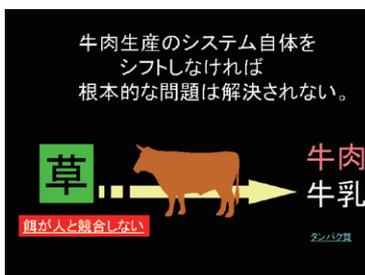
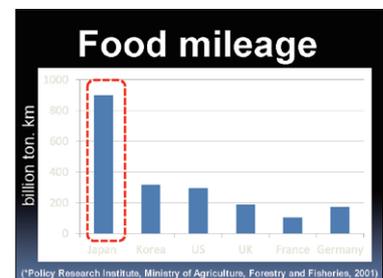
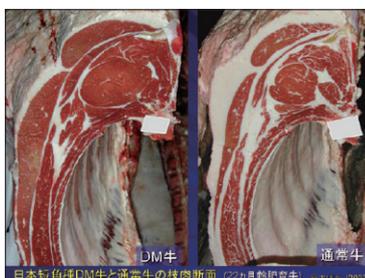
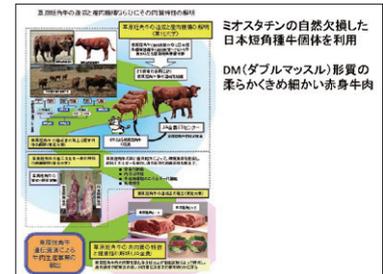
国内情報: 座談会「牛ゲノムを活用した新たな育種戦略」(穴田勝人、大竹匡巳、大山憲二、小林栄治、柴田正貴、杉本喜憲、依積田守、安森隆則)

牛ゲノム育種の評価はBLUP法より統計的に信頼度が高く、世代間隔を劇的に短縮させ、近交係数も上昇させます。1つの形質のみを求めると多様性とは相反し、遺伝子レベルで多様性を見られるような検定の継続が必要で、後代検定が重視されます。新しい価値観の形質の一つとして飼料の利用性もゲノム解析の対象になっています。

国産牛 NEWS

日本の赤身牛肉生産とその流通 全4回シリーズ③ 弘前大学生命科学部 松崎正敏教授 (日本産肉研究会会長)

- 第11回: 「新たな日本型牛肉生産と普及を考える」 広島・安田女子大学
- 第12回: 「草食動物としての牛肉生産の倫理的価値観とその販売のための戦略」 新潟大学
- 第13回: 日本食肉研究会と合同で「おいしさ」について 筑波大学
- 第14回: 「九州地域における放牧飼養の挑戦」九州大学高原農業実験実習場
- 第15回: 「我が国の牛肉産業の持続性を維持するために何をなすべきか」 宇都宮大学
- 第16回: 「日本畜産への問題提起と赤身牛肉生産の可能性」酪農学園大学
- 第17回: 「TPPにおける赤身牛肉の可能性は? : 海外産・国内産赤身肉の現状と動向」 日本獣医生命科学大学
- 第18回: 「自給飼料による肉用牛群育と地方を元気にするアグリビジネスの創出」 鳥取県出雲市
- 第19回: 「放牧牛とその活用再発見」 神戸大学
- 第20回: 「Only Oneで活路を見いだす牛肉の生産・販売戦略」 信州大学



内容を詳しく知りたい方は、データ送信しますので事務局までご連絡ください